



2009・8・10

事務局 岡谷市長地片間町 2-5-5
TEL, FAX 0266-28-9230

ニュース No. 36

活動行事の報告

8月6日(原爆記念日)核兵器廃絶岡谷平和の集い

小井川小学校アオギリの公園で、例年どおり小学生の手によって進行、平和の火点火、太鼓演奏、ダイイン、広島市長メッセージ、宣言 全員合唱と全て順調に進み、夏の朝のひとつとき、150人の参加者は感動に浸った。歌声も、今井市長の挨拶もさわやかであった。

核廃絶へ世界は一步ふみだした

オバマ大統領の「核兵器廃絶に向けて合衆国は具体的な方策をとる」というプラハ演説を契機に、世界的に反核の機運が高まっています。

長崎、広島両市長は国連本部で演説し「核なき世界への流れを力強い潮流にしていこう」と呼びかけました。先日のG8首脳会議でも核兵器のない世界を目指すこと合意されました。

また長野県議会は全国のトップをきいて、核兵器廃絶の国際条約締結にむけて日本が主導的取り組みを果たすよう求める意見書を、全会一致で採択。我が岡谷市議会も同様意見書を全会一致で採択しました。

国際的デザイナーの三宅一生さんはニューヨークタイムズで、広島にかかわることは避けてきたが、オバマ演説が「私の奥底にしまっていたものを呼び起こした」「(被爆者だと)声を上げることは個人としての道義的責任だ」と表明しました。

しかし、核兵器廃絶の世界の流れの中で、政府は依然「核抑止力」「核の傘」理論にしがみつき、世界で唯一の被爆国としての、主導的役割を果たせないでいます。私たちは、まず来年5月の核不拡散条約(NPT)で明確な約束がなされ、やがて「核兵器のない世界」が実現するようともに力を尽して行動しましょう。

核廃絶署名用紙を同封しました。(不足はコピーして)取り組んで下さい

オバマ大統領 プラハ演説の主な内容

核兵器を使用した唯一の核保有国として米国は行動すべき道義的責任を持つ

冷戦的思考に終止符を打つため米国は安全保障戦略上の核の役割を低減させる

追求しなければ平和は永遠に我々の手に入らない

核のない世界に向けて具体的な方策を取る

(米ロ戦略兵器削減条約の新たな合意・核実験禁止条約の批准・核不拡散条約の強化協力など)

今後の予定

8月15日（終戦記念日）岡谷駅前街頭署名

14：00～2時間程度 県民過半数署名 核兵器廃絶署名 ビラ配り

9月9日（水）9999協賛イベント 「九条に乾杯」

羽山晃生・弘子コンサートと歌声サロンの夕べ

本年は、二期会を中心にオペラで活躍中の羽山夫妻のテノールとソプラノ、また新作「アオギリの歌」「一本の鉛筆」等の歌声サロンです。

パークホテルロビー 午後6：30開場 7：00開演 チケット1,000円

事務局、各代表者にご一報下さい。会場の都合上150名で打ち切ります

親父の思い出

矢野健太郎

郷田1-6

父が亡くなって17年たつ。幼い頃は私は父とよく銭湯へいった。父の体にはあちこちに傷跡があった。不思議に思って聞くと、「これは戦争の時に出来た傷だ」と教えてくれた。幼い私にはあまりよくは分からなかったが、中学生になった頃には、ぼつぼつと戦争の時の話をしてくれた。だが多くは語らなかった。あまり思い出したくないことだったのであろう。

父はまた大酒飲みで、量が過ぎると「俺は陸軍軍曹だ！」と三日にあげず大荒れをした。私は酒癖の悪い親父だとばかり思っていたが、今思えば、当時のどうしようもない辛い思いを、家族や他人にも言えず、酒にぶっつけていたのだと思う。

父は祖父の代からの火作り鍛冶屋で、20歳で戦争に行き、戦争末期にはフィリッピンのある島にいた。物資補給を断たれ、武器弾薬、食糧もなく、アメリカ軍の艦砲射撃によって山々は赤肌となり、食用にしようにも、小動物はおろか昆虫さえもない状況の中で、アメリカ軍が上陸してきた。

父はその時、マラリヤに罹っていたため見捨てられ、息のあるまま放置されていた。「このまま死ぬのかな」と覚悟をきめていた時、父を慕う戦友達に助け出され、手当てを受けて、昭和20年最終帰国船で帰ることができたそうである。

父は日頃から戦友を大切にし、お互いに信じあい助け合ってきた。その深い絆によって苛酷な戦場から生きて帰れたのである。

父は生真面目でお人好し、自分の気持ちに嘘のつけない人であった。「自分は生きて帰るだけで良い。戦場で無念の思いで死んでいった戦友を思うと、どうしても受け取る気にはなれない」といって、國の軍人恩給の受け取りを頑なに拒否し通した。今になって、私は父の心が分かる気がする。

父の、ひとを愛し大切に思う心は、私の人生を方向づけたと思う。お互いに憎みあい報復しあう悲惨で愚かな戦争よりも、未来の子供達のためになすべきことは沢山ある。私は戦争の愚かさとともに、日本国憲法第九条の精神を、次の世代にきちんと伝えていかななくてはならないと思う。